

## 第6回 学校関係者評価委員会 議事録

日時：2021年6月1日 16:00～17:00

場所：厚木看護専門学校 会議室

### [出席委員]

渡辺 美加子委員 神奈川リハビリテーション病院副院長兼看護部長  
佐藤 裕子委員 愛光病院看護科長  
佐久間 謙一委員 同窓会長（愛光病院看護科長）  
青木 光好委員 情報科学講師  
風間 徹委員 厚木市松枝地区自治会長  
富永 恵美委員 3年生保護者  
笹野 京子委員 2年生保護者  
鉄矢 寧々委員 2年生（学生自治会会長）  
中丸 綾委員 2年生（学生自治会役員）  
村山 紗菜委員 1年生（学生自治会副会長）

### 1. 議事

- 1) 学校案内の紹介
- 2) 自己点検・自己評価 2020年度の結果と取り組み
- 3) 校内見学
- 4) 報告に関する討議

### [配布資料]

2020年度 自己点検・自己評価報告書

2021年度 学校案内

### 2. 報告結果

#### <学校長挨拶>

コロナ禍の状況で本会は対面で2年ぶりの開催となる。

学校はオンライン授業等、ICT環境を加速しながら教材や教育環境を整えている。

昨年度末、看護第一学科、看護第二学科の全員の看護師国家試験合格を果たすことができ、49年間に及ぶ看護第二学科の課程廃止を無事に締めくくることができた。

4月から看護第一学科は看護学科に改称した。

2022年度から始まる新カリキュラムの構築に向け準備を進めている。

本日は、2020年度の自己点検・自己評価の結果に対してご意見を頂戴したい。

本会の議事録は職業実践専門課程に課されており、学校ホームページで掲載してきた。以後、発言内容はお名前を掲載したかたちでの情報公開とさせていただきたい。

#### <議事1 学校案内の紹介>

副学校長 学校案内を今年度、刷新した。写真のモデルは当校の学生が務めている。当校が力を入れている看護技術、ICT、国家試験対策を強調した内容となっている。ポスターも刷新した。

#### <議事2 自己点検・自己評価 2020 年度の結果と取り組み>

- 大河原委員 2020 年度自己点検・自己評価、2020 年度の取り組み総括について。  
2019 年度の全体平均は 3.7 で、目標値である 3.5 を下回った項目は国際交流であった。この項目を重点課題として、外国籍学生の受け入れ要項の作成や海外留学プロジェクトの立ち上げなどに取り組んだ。結果、2020 年度の評価は上昇した。
- 渡辺委員 Q1) 2019 年度の評価項目の全体平均が 3.7 と記載されている箇所と 3.6 とされている箇所があるが、どちらが正しい数値であるのか？
- 大河原委員 Q1) について。全体平均 3.7 が正しい。3.6 は誤表記であった。
- 風間委員 Q2) 評価項目に「国際交流」の小項目を見ると海外留学や外国籍の受け入れ等となっており、交流ということと実際に取り組んでいる内容が一致していないのではないか。
- Q3) コロナ禍の中で国家試験 100%合格したということはなかなか大変なことだったのではないかと思うが具体的にどんな取り組みをされていたのか。
- 学校長 Q2) について。この自己点検・自己評価の項目は、文部科学省から提示されている項目に沿ってのものである。項目の表現については、今後、修正を検討する。海外留学の戦略は当校の課題であったため、昨年から取り組み始めたことで今回点数が上がった。コロナ禍で保留になっているが、今後、海外留学に行けるような準備を進めていきたい。
- 副学校長 海外留学先はアメリカを選定していて、病院や福祉施設の見学を 7 泊 8 日位で研修プログラムを組んでいた。コロナ禍の状況をみながら進めていきたい。
- 島田委員 Q3) について国家試験は、コロナ禍で対面できなかった分、リモートやスマートフォンのアプリを通して問題を繰り返し回答する方法を導入し、それが学生には効果があった。
- 鉄矢委員 クラスに国家試験係がいて、先生と協力して自分たちで勉強できるという環境を整えてきた。スマートフォンアプリについては、長期休業中は毎日問題の配信を受け取り組めるようになっている。また、取り組み状況が先生によって確かめられることが合格率を上げているのだと思った。

- 学校長 コロナ禍で従来の方略ができなくなってしまうため、オンラインで毎日ホームルームや相談を重ねてコミュニケーションを保ってきた。
- 鉄矢委員 多くの学生がタブレットを使って解いていて習慣化していると思う。
- 島田委員 やっている人とやっていない人が教員からは一目瞭然でわかるので、やっていない学生に声をかけるといった活用をしている。
- 鉄矢委員 成績順で自分がクラスのレベルのどの位置にいるのかが可視化され、正解率も計算されるため、モチベーションも上がり、目標も立てやすい。
- 渡辺委員 Q4) 学校運営の小項目の「安全対策の整備」が学校運営の中では特に低いのではないか。
- 学校長 Q4) について。昨年の10月に学校でボヤが発生してしまった。大事には至らなかったが、消防車の出動や消火作業などで学生たちを避難させたということがあったため、評価の値に影響していると捉えている。今後、様々な点で見直しをして防災に対する定期点検をしていく。
- 渡辺委員 Q5) 10月のボヤで評価が12月というのが影響しているのか。
- 副学校長 Q5) について。消防署からの調査結果が、発火の原因が不明という中での評価だったというもある。
- 渡辺委員 Q6) 抜き打ちでの避難訓練をやるだとか色々工夫されていて整えている印象がある。外から見る印象と教員が持つ評価者の印象が少し違うのだろうか。
- 学校長 Q6) について。教員の自分たちへの評価が厳しい。できていてももっとこうしたいという意識が評価に影響している。
- 大河原委員 安全対策については、病院などで実施されているものと同様のインシデント、アクシデントという医療事故の報告書を集計している。評価を行う12月の時点では、なかなかインシデントが減らない状況や例年起こす事象が発生していた影響もあると考えている。
- 副学校長 学校では大体、月に5～6件起きている。当校は結構厳しくて、例えば、鍵付きのキャビネットの保管文書を本来、2段目にしまう約束を3段目にしまってしまったということでもヒヤリハットで教員が確実に報告書をあげてくる。そういった安全に関しての厳しさは評価に反映していると思われる。
- 渡辺委員 もっとこうしたいという思いはよくわかりましたので、思いだけでとどまらずこの結果をぜひ行動に移していただきたい。
- 佐久間委員 Q7) 「学生相談」と「健康管理を担う組織体制」に関して。昨年のコロナ禍で学生が環境が激変した中で、体温測定など身体的な対策は見えてきたが、メンタル的な相談件数はどうだったのか。
- 学校長 Q7) についてメンタルについてはカウンセラーを週1回配置し、活用されている。カウンセリングにつながるとよいと思う学生がうまくつながらない時があり苦慮している。

- 島田委員 すすめたい学生さんこそカウンセラーとつながらなかったりする。家族との調整もある。
- 鉄矢委員 カウンセリングにいったことあると聞いたことはあるが、あまりひろまっていない印象はある。学生相談という点ではチューターの教員がいて、国家試験や身体面、心理面で困ったことはないのかといった相談に手厚く乗ってくれる。相談しやすい。
- 佐久間委員 コロナ禍で臨地における実習が減り、経験が少ないことでの焦りがあるような印象があった。昨年の段階でどうだったのかが気になったため質問した。
- 青木委員 Q8)「学校運営」の「業務の効率化」の数値がだいぶ上がってきているが具体的な取り組みはどのようなことをされたのか？
- 学校長 Q8)について。看護第二学科廃止に伴い、職員室をかなり片付けたことで、多発していた書類の紛失などが減ったと認識している。
- 副学校長 年度末の片付けの際に書類も含めて9.8トンの量を廃棄し、書類の紛失や探索は大幅に減った。また、ペーパーレスにしたことも大きい。
- 青木委員 Q9)評価数値の全体が最大値の4.0に迫り、学校がさらに発展していくための2年後3年後の長期的な展望をお伺いしたい。
- 学校長 Q9)について。当校含め、専門学校が生き残っていくための課題は山積である。18歳の人口の減少は始まっているが、現状で定員数は確保できているものの、今後も確保していくためには「学校の魅力」というものをもっと打ち出していけないといけない。看護実践力、ICTの充実、国家試験100%そういう3つの柱を今回パンフレットに掲載し、取り組んでいるがまだ道半ばである。
- 副学校長 現状維持ではなく必ず翌年に発展させることを目指して必ず取り組むことにしている。

#### <議事4 報告に関する討議>

- 富永委員 Q10) 昨年度の入学生から電子教科書の入ったタブレットを使っただけの授業になったが、在校生であった3年生のタブレット導入は見送られた。学年全員の契約という条件がそろわないと実現できないということであった。3年生だけ乗り遅れ、アプリや国家試験対策サイトを活用する際、自分のスマートフォンでなければならないところが不便を感じている。タブレット導入は希望者だけでもできなかったのか。
- Q11) 実習の最初の一週間は学内実習でペーパーペイシエント（仮想の患者情報を設定した患者事例）で看護過程の演習をやっている。本当の患者ではなく、実際の所を確かめるということもできない中で、学生が自分と先生の見解の相違があったときに、消化不良な状態で進めるところもあった。時間が限られ、厳しい面もあるとは思いますが、学生がどうしてこう思ったのかというところを

- よく聞いたうえで指導していただくとともに納得して進められると思う。
- 副学校長 Q10) について。電子教科書に関しては業者が学年全員での導入でないと販売しないということだった。3年生の気持ちはよくわかり、様々取り図ったが、1人でも買えないという学生がいれば、学校としてそれは選択できないという判断であった。
- 島田委員 Q11) について。実習に関してはご発言の通りで、学生の思いや考えをきちんとよく聞いて学びに繋げるようにしていきたい。全教員と共有したいと思う。なかなか時間もなく教員に自分の思いを言える感じではないのか。
- 富永委員 教員に伝えているし、教員も聞いてくれないというわけでもない。しかし、教員の考えを言われてしまうと、なかなか言い返せない。経験ある人から言われてしまうと自分の意見を引っ込めるしか無いのかと思ってしまうようだ。学生の学びですごくいいこと言う場面もあるので、そこら辺を汲み取っていただけるといいのかと思った。
- 笹野委員 説明会の時に再試験が多いと聞いたので心配していた。毎日先生から課題の提示があることや、アプリで学習に取り組んでいると聞いて頑張っていることがわかり、これからも頑張りたいと思った。
- 佐藤委員 昨年コロナで急遽、実習時間が7日間と少なくなり、学生が患者さんと関わり考えて援助に繋がっていくという支援に臨床もとても悩んでいた。就職後、患者さんと関わるのが不安であることや、先輩と話すことやグループワークも負担だという新人の現状もある。実習病院側もそういう学生さんたちが実習に来て、就職していく中で指導のあり方も考えていく時期であるのかと話している。そういう中でも、実習に来ることができただけでもよかったとってくれるので病院としても支援していきたいと思っている。

<欠席委員からのご意見>

井上 直樹委員 神奈川県総合リハビリテーション事業団事務局長  
特になし

鷲塚 明子委員 厚木市立病院副院長兼看護部長

最近就職後に「出来ない自分」に落ち込み、抜け出すことがきず、休職や退職につながる新人が増えた印象がある。「出来るが増えている」という自分自身を肯定できるように支援しているが難しい現状もある。

榎 恵子委員 神奈川県立保健福祉大学 神奈川県立保健福祉大学院教授

2020年度の自己点検・自己評価は前年度より高評価となっており、大変すばらしく思う。ICT教育も推進しており、卒業後に速やかに対応できる技術を持つ看護師教育を実践されていると感じている。今後もこうした教育実践の継続、さらなる発展に向かわれると確信している。